



# 丹那小だより

函南町立丹那小学校  
令和5年7月発行

## 「防災キャンプ」に挑戦 世界に一つの命を守るための はじめの一步

校長 土屋 貴俊

「うちは、土砂災害が起きたら道がふさがれてどこにも避難ができなくなる。家で2〜3日過ごすための食料や簡易トイレなどを用意しておかないといけない。でも、畑があるから野菜は食べられるかな。」

静岡県ジュニア防災士出前講座で行った「災害図上訓練」をしているときにある子供がつぶやいた言葉です。

今までは、「近い将来大きな地震が発生するかもしれない。」「大雨が降ったらどこか崩れるかもしれない」と漠然とした知識でしたが、今回の防災キャンプを通じた体験や学びによって災害が起きた際にどう動いたらよいのか、災害に備え何をどうしておくのとよいのか等、子供たちが具体的に行動に移すためのきっかけづくりとなりました。この防災キャンプを通して以下のようなことを子供たちは学びました。この学びを誰かにそして次の活動につないでいって欲しいと願います。



- ① 丹那地域の中で災害時に役立つ場所（AEDを設置している・飲料水、食料が確保できる・避難所）がどこにあるか知ることができました。
- ② 防災の第一歩は、部屋を片付けることから始まります。
- ③ 大地震の際、登下校路で危険（ブロック塀が倒れる・電柱が折れる・瓦が飛んでくる等）な箇所が分かりました。気をつけて歩きます。
- ④ 自衛隊や消防隊等はすぐに駆けつけてくれません。その人たちが助けてくれる命は、5%程度。まずは、自分たちで助け合えるように準備しておくことが大切です。
- ⑤ 災害に備えて食料・水だけでなく、簡易トイレやジャッキ・バールなどの道具もあると自分や他者を助けるために役立ちます。
- ⑥ 起震車を体験し、震度6や7の地震は立っていられないくらいの大きな揺れであることが分かりました。家具の固定（ネジを使って）は絶対に必要だと思いました。
- ⑦ 耐熱のポリ袋を使い、湯が沸けばご飯を炊いたり、カレーを作ったりすることができました。



町女性消防団・町消防団第2分団・役場総務課・保護者の皆様の御協力を得て防災キャンプを終えることができました。御協力に感謝いたします。防災教育はこれで終わりではなく、ここからが始まりです。かけがえのない命を守るために、積極的に他者と関わりながら自分で考え判断し、行動できる子供に育てていくことを願っています。家庭や地域にとっても子供たちが大きな力となることを期待しています。